をもとがめ給はずて、こよなう入興し給ひけり、斯くいふ我も今は耳遠し、

〔病名彙解 仁〕耳聾　俗ニ云ツンボウノコトナリ、聾ハミヽシヒト讀リ、龍ハ角ニテ物音ヲ聞テ、耳ニテハキカヌ也、故ニ龍ノ耳ト書リ、病源ニ云ク、精氣調和スルトキハ、腎ノ藏强盛ニシテ五音ヲ聞、モシ血氣ヲ勞傷シ、兼ヌルニ風邪ヲ受レバ、腎ノ藏ヲ損ジ、精脫シテ耳聾スルナリ、

〔東海道名所記 六〕世に島原と名づく、〇中略 かゝる者〇女遊の果は、上下共によろしからず、親にかゝりは勘當せられ、後には盜人になり、主にかゝりは、おやかたをたをし、他國に走りて請人に迷わくさせ、又は唐瘡をかきいだして、これをふせがんとて、輕粉大風子なんど、あらけなき藥をのみて、瘡毒うちに責ては筋ちぎれ骨くじけていごう引つり、かなつんぼうになりつゝ、ながきうれひをまねくもあり、これは薄き人々の傾城ぐるひの事也、

〔松屋筆記 八十四〕生肌武者、つんぼう武者、雜人原、白齒者、青葉者、

同部〇甲州眞傳步騎必用口傳四卷行軍部 生肌武者、つんぼう武者雜人原白齒者共といへる條に、コノ三ケ條は、古ヘナキコトバナリ、近代云ナラハスト見ヘタリ、生肌武者トハ薄手ヲ負、其疵未愈ザルニ大合戰アレバ、出ズシテ叶ヌユヘ、ソレ〳〵ノ支配頭ヘコトハリ、具足ヲキテ出ルモノヲ云、又一說に、手負武者、頭ニコトハリ、具足ヲキズ羽織バカリニテ出ルヲ云トノ二說ナリ、ツンボウ武者ハ具足ヲ著テ、指物ヲサヽヌヲ云、雜人原トハ中間荒子ノ類、一度モ具足キヌモノヲ云、コレヲ青葉者トモ云ナリ、

〔日本靈異記 上〕聾者歸敬方廣經典得現報開兩耳緣第八

小墾田宮御宇天皇之代、有縫伴造義通者、急得重病、兩耳並聾、惡瘡遍身、歷年不愈、自謂宿業所招、非但現報、長生爲人所厭、不如行善遄死、乃掃地飾堂、屈請義禪師、先潔其身、香水澡浴、依方廣經、於是發希有想、白禪師言、今我片耳聞一井名、故唯願大德忍勞拜、依禪師重拜、片耳既聞、義通歡喜、亦請重禮、